

第 9 章 港湾・空港

第 1 節 港 湾

1 港湾の概要

本県には、重要港湾が秋田港、船川港、能代港の3港、地方港湾が本荘港、戸賀港の2港、計5つの港湾があり、県は、港湾管理者として港湾整備や管理運営を行っています。

重要港湾の秋田港は、県内の物流の拠点港として内貿・外貿の物流機能の強化と船舶の大型化に対応した整備、船川港は男鹿地域の物流港としての整備、能代港は県北地域の物流港及びリサイクルポートとしての整備を進めています。

地方港湾の本荘港及び戸賀港は海洋性レクリエーション基地・観光振興基地として利用されています。

港湾・空港位置図



入港船舶及び海上出入貨物(平成21年)

(単位:隻・総トン・トン)

	入港船舶		海上出入貨物(トン)		
	隻数	総トン数	合計	出貨	入貨
秋田港	2,528	15,551,479	6,400,378	1,649,498	4,750,880
船川港	557	504,521	655,506	168,117	487,389
能代港	258	2,213,827	3,390,396	179,663	3,210,733
本荘港	26	13,380	23	0	23
戸賀港	852	14,467	312	0	312
計	4,221	18,297,674	10,446,615	1,997,278	8,449,337

フェリ-含む

入港船舶総トン数別比較(平成21年)

	県内全域 (秋田港・船川港・能代港・本荘港・戸賀港)			
	隻数	%	総トン数	%
	10,000総トン以上	602	14.3%	13,802,430
6,000総トン以上	117	2.8%	967,347	5.3%
3,000総トン以上	556	13.2%	2,208,811	12.1%
1,000総トン以上	252	6.0%	552,790	3.0%
500総トン以上	526	12.5%	418,371	2.3%
100総トン以上	798	18.9%	325,153	1.8%
5総トン以上	1,370	32.5%	22,772	0.1%
計	4,221	100.0%	18,297,674	100.0%

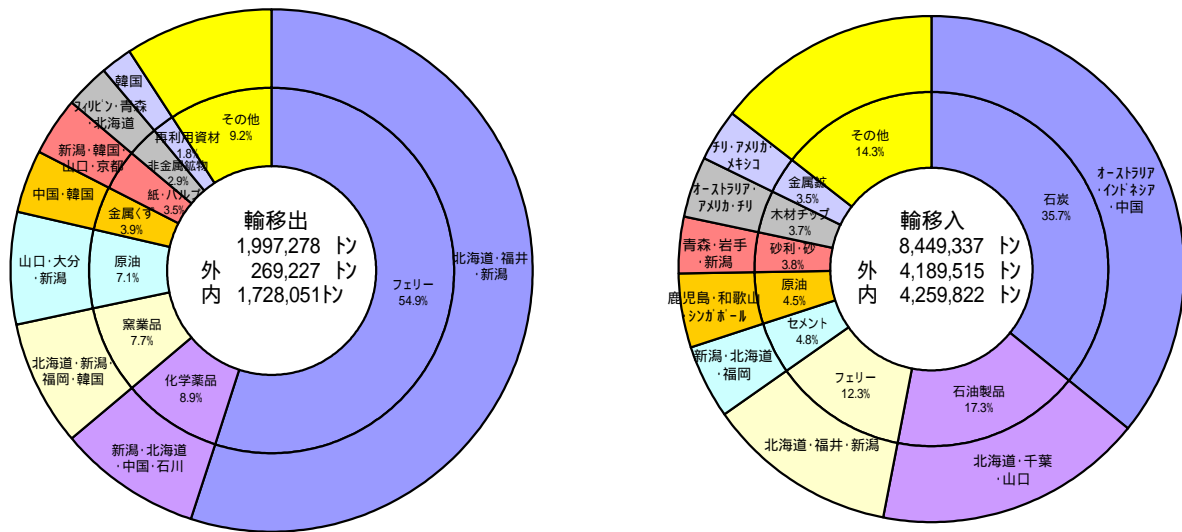
秋田港外貿コンテナ貨物取扱個数

(平成7年11月定期航路開設)

	輸入	輸出	計
平成14年	17,914	18,908	36,822
平成15年	20,067	19,829	39,896
平成16年	21,093	20,285	41,378
平成17年	21,262	21,615	42,877
平成18年	26,297	25,230	51,527
平成19年	25,294	26,098	51,392
平成20年	24,453	22,662	47,115
平成21年	19,435	19,470	38,905

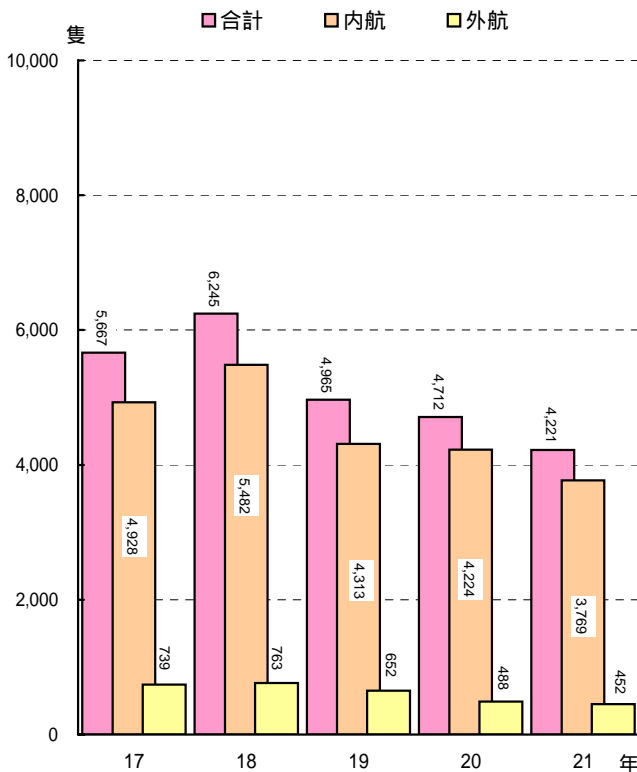
20フィートコンテナ換算(空コンテナを含む)

出入貨物別品種別比較 (平成21年)
県内全港

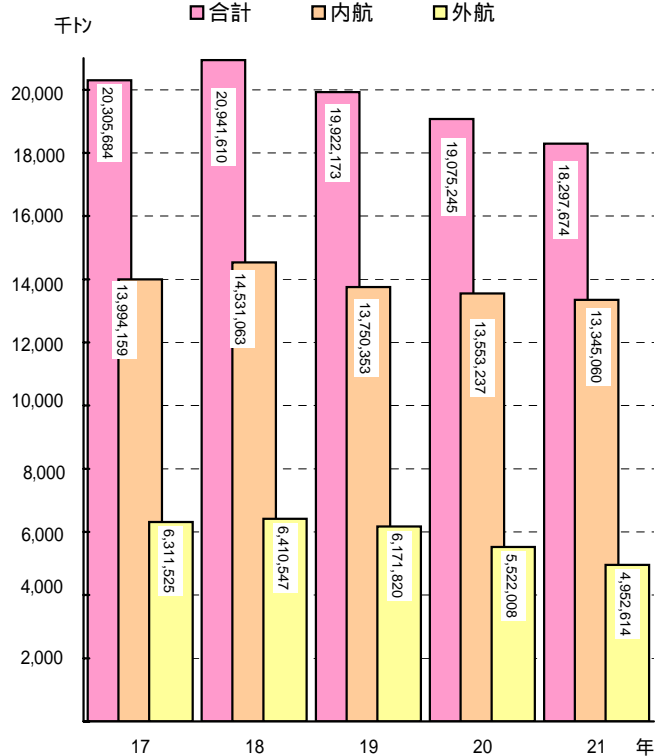


入港船舶の動き
県内全港

入港船舶隻数の推移



入港船舶総トン数の推移



1 港湾事業

各港の整備方針と事業計画

[秋 田 港]

環日本海交流を支える物流ネットワークの整備に向け、日本海側における物流拠点港としての機能強化を図るため、外郭施設等の整備を促進します。

[平成22年度主要事業]

港内静穏度や航行船舶の安全を確保するため港内消波等の外郭施設の整備を進めるほか、手狭になっている埠頭の再編を図るため外港地区国際コンテナターミナル及び飯島地区新北防波堤の整備を実施します。



秋田港全景

[船 川 港]

航行船舶の安全確保を図ります。

[平成22年度主要事業]

本港地区の航路泊地の浚渫を実施します。



船川港全景

[能代港]

県北部地域の物流基地としての機能強化、および「秋田県北部エコタウン計画」と連携したリサイクルポートとしての機能確保のため、外郭施設の整備を推進します。

[平成22年度主要事業]

港内静穏度を確保するため第二北防波堤の整備及び北防波堤の改良事業を実施します。



能代港全景

2 海岸事業

秋田県内における港湾空港課が所管する海岸延長は、県全体(263.3km)の17.7%にあたる46.6kmですが、このうち27.2kmが津波、高潮、波浪等の被害から海岸を防護する海岸保全区域に指定されています。

海岸事業では、日本海特有の冬季風浪等から県土を防護する海岸侵食対策事業を推進します。

[本荘港]

海岸の侵食を防止するため、水林地区で離岸堤の整備を実施します。



本荘港全景

第 2 節 空 港

1 秋田空港の概要

本空港は、JR秋田駅の南東25kmに位置し、面積約160ha、長さ2,500mの滑走路と計器着陸装置(ILS)などを備えています。また空港周辺は、600haの広大な県立公園として整備され、緑豊かな都市公園型空港となっています。

就航路線は、東京、大阪、札幌、名古屋の4路線で、着実に県民の足として定着しています。

また平成13年度には国際定期便(ソウル便)の就航を実現、平成14年には国際航空貨物の取扱いも開始され、さらに利便性の高い空港となっています。



秋田空港全景

空港施設の概要

設置者	国土交通大臣	場周道路	長 / 6,455m 巾 / 5.5m
管理者	秋田県知事	駐車場	45,849m ² (1,530台)
空港の名称	秋田空港	照明施設	進入灯・滑走路灯・誘導路灯・エプロン灯等
空港の位置	秋田市雄和椿川	無線施設	ILS(計器着陸装置)・VOR/DME
空港の標点	北緯39°36'56"		(超短波全方向式無線標識 / 距離測定装置)
	東経140°13'07"	庁舎管制塔	一式
空港の標高	93.05m	通信施設	一式
空港の種別	特定地方管理空港	気象施設	一式(風向風速・雲高・視程計)
空港の総面積	1,589,656m ²	消防施設	40t水槽8基(化学消防車3台)
着陸帯	長 / 2,620m 巾 / 300m	防雪施設	除雪機械等一式
滑走路	長 / 2,500m 巾 / 60m	ターミナルビル	国内線棟3階建(10,995m ²)国際線棟(一部3階建3,620m ²)
誘導路	長 / 2,830m 巾 / 30~34m	貨物ビル	2棟
エプロン	長 / 310m 巾 / 190m(5バース)	給油施設	200kl / 2基
排水施設	一式	燻蒸・焼却施設	一式

立体駐車場の整備により、平成22年9月中に「2,230台」となります。

2 大館能代空港の概要

本空港は、県北部の北秋田市脇神に位置し、面積は約120haで、長さ2,000mの滑走路と計器着陸装置(ILS)などを備えています。

平成10年7月18日に開港し、就航路線は、東京、大阪の2路線となっています。また、空港周辺には緩衝緑地帯を活用した「ふれあい緑地」が整備され、センターハウス、クロスカントリースキーコース、展望台等の施設を備えています。

空港施設の概要

設置者	秋田県知事	場周道路	長/5,423m 巾/5.5m
管理者	秋田県知事	駐車場	13,510㎡(386台)
空港の名称	大館能代空港	照明施設	進入灯・滑走路灯・誘導路灯・エプロン灯等
空港の位置	北秋田市脇神	無線施設	ILS(計器着陸装置)・VOR/DME
空港の標点	北緯40°11'31"		(超短波全方向式無線標識/距離測定装置)
	東経140°22'18"	庁舎管制塔	一式
空港の標高	84.0m	通信施設	一式
空港の種別	地方管理空港	気象施設	一式(風向風速・雲高・視程計等)
空港の総面積	1,214,240㎡	消防施設	40t水槽9基(化学消防車1台・消防車1台)
着陸帯	長/2,120m 巾/300m	防雪施設	除雪機械等一式
滑走路	長/2,000m 巾/45m	ターミナルビル	地上2階建一部3階建(4,062㎡)
誘導路	長/230m 巾/30m	貨物ビル	1棟
エプロン	長/225m 巾/110m(4バース)	給油施設	200kl/1基
排水施設	一式		



大館能代空港全景



展望広場



センターハウス